

加藤 健太 准教授

【かとう けんた】

青山学院大学経営学部卒業。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。主な研究テーマは、M&Aと株主総会と総合商社の歴史分析。



- 戦前期日本経営史
- 外国経営史
- 戦後日本経営史

研究テーマ

最近の研究テーマは、株主総会。株主総会と言うと、日本では“形骸化”してるって話があるところまでされてきた。言い換えれば、きちんと機能していないって議論だ。でも、昔からそうだったわけじゃなくて、明治時代とか大正時代とかには、株主が経営者にあれこれ注文を付けていたと主張する学者もいる。これはこれで、けっこう説得力があるのだけど、そんなにちゃんと証明されてないような気がするから、株主はどんなことを主張してたのか？ その主張は実際の経営に反映されてたのか？ とかを研究して、株主の影響力の強い／弱いが、企業経営にどんな意味を持つのか？ ってことを考えてみたい。と思ってる。

担当科目とゼミの内容

①担当科目…経営史

経営史は、企業発展のダイナミズムを描き出す分野で、そのアプローチはいろいろな側面から可能だから、一言でいうと“学際的な分野”となる。戦略、組織、企業家・経営者、コーポレート・ガバナンス、製品開発、資金調達、生産システム、流通政策、広告宣伝活動などなど、自分の興味のある側面から興味のある企業にアプローチすればいい。まあ、その企業の成長にとって重要な側面であることが望ましいけど。たとえば、ユニクロを展開するアパレル・メーカーのファーストリテイリング。この企業のダイナミズムを描き出す時、柳井正という経営者に注目してもいいし、フリースとかヒートテックみたいなヒット商品の開発プロセスを題材にしてもいいし、多部末華子も起用された広告戦略に焦点を合せてもいいし。ただ、ある1時点だけを見るのではなくて、ある程度長いスパンをとって、その間の変化を描き出そう。経営史の“史”の字は、“時間軸”を表しているの…

②ゼミの内容

ゼミの主な活動は、企業研究である。具体的には、特定の企業を対象に取り上げて、『週刊ダイヤモンド』や『週刊東洋経済』などの経済雑誌を主な資料（情報源）に使って調べて、レポートを書いて発表して、その発表をベースにみんなで議論してる。

株主は昔から黙ってた？

ゼミ生のひとこと



①2期生の一言

「カトケンゼミって仲いいよね。」周りの友人からよく言われる一言。みんな、仲良しです。「カトケンゼミって大変そうだよ。」これも、よく言われる一言。実際、大変です。でも、充実していたと実感しています。(りんちゃん)

②3期生の一言

ボタンシャツにジーパン、サンダル。これがカトケン先生の構内スタイル。気さくで穏やかな先生なので、経営史やゼミに興味がある人は研究室に寄ってみてください……☆(ともちゃん)